

中学校の体育で「武道」が必修化される見通しとなり、教育現場では既に、武道を必修化して「礼儀や精神力の養成」を目指す取り組みが行われている。その指導方法や効果を探った。

【加藤裕実・写真】

中学校で武道必修化へ

「パン、パン」。聲を手でたたく音が響く。「受け身が安全に取れないと、けがするぞ!」。体育館の一角落で一枚敷いた仮設の「道場」で、河合教諭(37)が声を擡り上げた。

東京都江東区の私立かえつ有明中学・高校(嘉悦女子中高)が、平成16年(2004年)度に移転してから共学化した。カリキュラム刷新の一環で、今年度から中2以上の男子に柔道を必修化した。

柔道の心構えを話す。いや、受け身の練習に時間が多い賣なわが、選ばない工夫も凝らす。「なんぶジヤンケン」は、体験の要領で、なんぶされた者同士がジヤンケンし、負ひた組が勝った組の二人を担ぐ。当初は、「ねぶくろ」とひかるの「ヒューリック」とひかるの「ヒューリック」で、思ひ立つて組み立てる事。

思いやりや札学べる

かえつ有明中「国際人は自國知る」と先行実施



投げ技の練習をする生徒たち=東京都江東区の「かえつ有明中」

課題は指導者の養成

かえつ有明中で柔道を必修化する方針だ。

嘉悦校長は、「必修化

の最大の課題は指導者養成」と語る。03年度に高

校で「情報」が必修化さ

れた際も、他の学校で

日本人には欠けてしまった」と語る。自身がスイスの高校に留学した際、柔道の授業があり「日本人なのに用語を説明できないのか」と指摘され駄をかいだ。その経験が

いう武道の精神が、今の日本人には欠けてしまった」と語る。自身がスイスの高校に留学した際、柔道の授業があり「日本人なのに用語を説明できないのか」と指摘され駄をかいだ。その経験が

日本古来のもの

を知らない

日本人になり得ない」との持論につながる。今後女子にも武道を必修化する方針だ。

嘉悦校長は、「必修化

が不足した。「きっと同じ事態が起まる。教員養成課程の変革が先だ」と心配する。

河合教諭は大学まで柔道を続けた経験があるが、「経験のない教諭ばかりは、相手がいるから自分で磨き、高める」ことができる」とこの柔道の

コンピューターの指導者が不足した。「きっと同じ事態が起まる。教員養成課程の変革が先だ」と心配する。

河合教諭は大学まで柔

道を続けた経験がある

が、「経験のない教諭ばかりは、相手がいるから自分で磨き、高める」ことができる」とこの柔道の

アドバイスを受けてはいいが、心の健康は体の健

康以上に大事。武道が何かなどと思ふ。フェア

を人生の場面、日常生活の中で生かしていく

からだと思います。武道が戦争を利用された」「苦

しき授業とするため、個々の教員だけではなく、各武道団体が力を結集していってくれた。

柔道は心身をバランス良く鍛え、腰身にも使える。国際的なスポーツでもある。何より「相手がいるから自分で磨き、高める」ことができる」とこの柔道の

東海大教授 山下泰裕さん



ブレーの精神は、クラウンドやコートの上で「武道は整れた」との如きで示すものではない。武道を知ればいい。でも生徒が「きつい相手を大事にする和のじめなど最も「道」にいいつづりと嫌いにならなければならぬ」と氣付いてしまったら最悪。反するひとほど気付くってしまったら最悪。相手を大事にする心を、國や世界、地球を大事にする心にもつだらう。

名武道団体が、対象を

フェアプレー、人生で生かせる

ロサンゼルス・オリンピック柔道金メダリスト

基本精神は教育的に価値がある。

私は、身に着けたもの

を人生の場面、日常生活の中で生かしていく

からだと思います。武道が戦

争で利用された」「苦

しき授業とするため、個々の教員だけではなく、各武道団体が力を結集していってくれた。

柔道は心身をバランス

良く鍛え、腰身にも

使える。国際的なス

ポーツでもある。何より

「相手がいるから自分で磨き、高める」ことが

できる」とこの柔道の

中学校の武道必修化の方針は今年9月、文部科学相の諮問機関・中央教育審議会の専門部会で了承された。対象は中学1~2年の男女で、併せてダンスの必修化もまとまりた。年度内に改定される学習指導要領に盛り込まれる見通しで、早くから実施は指標が始まる。対象は中1~2年。(元全実施は12年度から)。

現在、中1は武道とダンスのいずれかを選択し、中2は中3は球技、武道、ダンスからの二つ選択する仕組み。これが原則、中1と中2で武道とダンスの両方を必ず学ぶ仕組みに変わること。昨年12月に成立した改正

中学校の武道必修化の方針は今年9月、文部科学相の諮問機関・中央教育審議会の専門部会で了承された。対象は中1~2年の男女で、併せてダンスの必修化もまとまりた。年度内に改定される学習指導要領に盛り込まれる見通しで、早くから実施は指標が始まる。対象は中1~2年。(元全実施は12年度から)。

現在、中1は武道とダンスのいずれかを選択し、中2は中3は球技、武道、ダンスからの二つ選択する仕組み。これが原則、中1と中2で武道とダンスの両方を必ず学ぶ仕組みに変わること。昨年12月に成立した改正

地域の実情に応じ弓道や空手も

教育基本法に「伝統的文

化を尊重し、それを受けいへ

んできた我が國の歴史を慶

祝する態度を養う」との目標

が明記されているが、なまな

ら地域の実情に応じて認め

ている。ダンスとして例示

されているのは創作ダン

ス、フットボール、サッカーヒップ

ホップのリズムでも、西印度

諸島などの伝統的舞踊でも

構わない」としている。